

高年齢ホワイトカラーの職域拡大のための  
コンピュータ訓練システムの開発  
— 総合報告書 —

雇用促進事業団

職業能力開発大学校研修研究センター

## 序 文

国の発展の源泉は、国内外の各産業分野で働く勤労者の活力に依存することはいうまでもない。ここ数年の急激な出生率の低下は、将来の若年労働人口の減少による経済活動の停滞、ひいては国の発展を阻害する恐れのあることへの危惧が顕在化してきており、早急な対応が求められている。

近代国家として、わが国の発展は、石油ショック以後、目ざましいものがあった。高度成長を果たしてきた現在、国際社会の中で生まれたグローバル化の嵐は、わが国を直撃し、今までとは異なる国際対応を果たす立場に立たされている。このような環境の中で、近い将来、若年労働力人口の不足に対応するため、高度成長に主導的な役割を担った中高年齢者の人材を活用することが求められている。

しかしながら、社会、経済システムが高度化し、従来とは全く異なる社会環境の下で、中高年齢者が培ったキャリアの延長線上に、将来の産業を保持・発展させるには、自ずと力量不足であることは明白である。更に、中高年齢者の雇用環境は、長引く不況の影響によって、ますます悪化の傾向にあり、一段と厳しい再就職状況を生んでいる。

こうした雇用情勢の中で、企業努力によって個人のキャリアを活かした職業能力開発が継続されており、職域拡大による職務再配置が行われ、産業の高度成長や経済活動を側面的に支えている。一方では、企業内失業者を抱えることになり、その結果として、肥大化したホワイトカラー層へのメスはキャリアアップによる効率化という問題を浮上させている。

以上のような観点から、高年齢ホワイトカラーの職業能力開発の方策として、定年後の生活をどのように過ごすのかを見据えたうえで、必要とする職業能力開発を個人の力量に応じて、準備された多様なコースの中から最適なコースを選択し、機動的に訓練を受けていくことができるようなシステムに再構築することが必要である。

職業能力開発大学校では、以前から高齢者問題の解決に資するため、経常研究として研究に取り組んできたが、平成5年度に能開大プロジェクト研究の開発研究テーマとして位置づけられた。今日に至るまでの5カ年間に「高年齢ホワイトカラーの職域拡大のための訓練システムの開発」プロジェクトを以下述べる部会を設置し、実施した。

初年度において、高年齢ホワイトカラーの特性を把握し、その特性をもとに高年齢ホワイトカラーのコンピュータ訓練にふさわしい入力装置、表示装置、訓練支援ソフト及びCAIを開発することを目的として、①調査部会 ②入力・表示装置開発部会 ③訓練支援ソフト開発部会 ④CAI開発部会の4作業部会を設置して、それぞれの分担のもとに訓練システムの開発を進めてきた。このことは既に調査研究報告書（No.69）で入力・表示装置に関する部会での検討経過及びその成果物を紹介し、No.70で訓練支援ソフト開発部会活動を報告した。また、調査部会の報告は調査部会で実施したコンピュータ訓練特性に関する調査結果をまとめた（No.75）。更に、CAI開発部会では、コンピュータを使った業務遂行が必須条件となっている現状から、中高年齢者が業務遂行の道具としてコンピュータを容易に活用できるようにすることが、職業能力開発の条件であり、また職域拡大の基本条件であることの認識に基づき、1. メディアを利用した学習における高年齢ホワイトカラーの特性、2. 高年齢者のコンピュータ学習、3. CAI形態と適合システム及び授業形態との適合性、4. CAI教材制作

の基本方針などを検討し、C A I (Computer Assisted Instruction) の教材開発を進めてきた。

なお、その結果は「高年齢ホワイトカラー職域拡大のためのコンピュータ訓練システムの開発—C A I 開発部会報告」(調査研究報告書No.71 1994) としてまとめ、発表したところである。

この報告書は、プロジェクト発足から平成9年度までの、5カ年間の研究開発について、その主な活動を総合報告書としてまとめたものである。

本報告書の作成にあたり、ご協力いただいた関係各位に深く感謝する次第である。

1998年3月

職業能力開発大学校  
研修研究センター

調査研修報告書No.93

高年齢ホワイトカラーの職域拡大のための  
コンピュータ訓練システムの開発 — 総合報告書 —

---

発行	1998年3月
発行者	職業能力開発大学校 研修研究センター 〒229-1196 相模原市橋本台4-1-1 電話 042-763-9005
印刷	システム印刷株式会社 〒191-0031 日野市高幡454 電話 042-591-1411

---